

島根小学校における読書活動の実践

松江市立島根小学校 司書教諭 安達百合子

本校は、松江市の北部、海と山に囲まれた自然豊かな島根半島の中ほどに位置する、島根町の小学校である。各学年単式で現在138名の児童と約17名の職員がいる。また、常勤の学校司書が配置されている。

本校は、「ゆめ」をもち、「なかま」を大切に、自ら「かがやく」子どもの育成を学校教育目標とし、それを受けて、「未来に向かって自ら学ぶ姿勢と豊かな心を育てる」図書館を目指し、日々子どもの読書活動及び図書館教育の推進に取り組んでいる。

本校の学校図書館は、本館、書庫、図書スペース、渡り廊下に設置した絵本と情報発信のスペースがある。蔵書数は約 9,200 冊、年間の一人当たりの貸出数は、新型コロナの影響でやや減ってはいるが 100 冊近くになる。図書館を活用した授業も、県の図書館活用教育事業を受けていたこともあり、令和2年の総時数は 301 時間であった。

本校では、校長のリーダーシップのもと、次の三つの柱を立て、学校図書館教育を推進してきた。

1. 子どもたちが本を身近に感じ、読書に親しめるような魅力ある学校図書館にするための環境整備
2. 楽しみながら幅広く読書することができるような場の設定等を工夫
3. 教科等横断的な視点に立った単元を構想し、図書館の「学習センター」「情報センター」としての機能を支えとする、図書館を活用した授業の工夫

この中で、読書に係る1と2の、具体的な取組を以下に紹介する。

取組の内容(1)として、環境を整備し本に親しむことができる場を設定した。

以前の本校の図書館は、9類の図書が本館の隣の別室に書架があり、その部屋は狭く暗く子どもたちの利用は多くはなかった。そこで書架を移動し、子どもたちが本を手に取りやすい配置にした。具体的には、

- ①教室棟と図書館のある特別棟をつなぐ渡り廊下に、絵本コーナーを設置する
- ②廊下の壁面には全校の読書のめあてカードを掲示するなど、読書に関する情報発信コーナーとする
- ③図書館近くのオープンスペースを図書コーナーとし、9類の図書の書架を設置したり、ソファタイプの椅子を置いたりして、子どもたちが広く明るい場所で物語に親しむことができる場を作る
- ④学年に応じた必読書を学校図書館運営委員会で決め、子どもたちが積極的に読んでくれることを願って読書を推奨するコーナー(きらり・りんごコーナー)を図書館側に設置する

これは、取組(2)の、幅広い読書活動を進めるための取組とも重なるが、「きらりコース」とは、国語の教科書の中に紹介されている図書の中から、学校司書を中心に校内で選定した7冊を必読書としたものである。このたび松江市で採択する教科書が変わったため、次年度に間に合うように選書の改定を行っているところである。

「りんごコース」は、島根小独自に選定した必読書である。6年間を通して物語、科学読物、神話・民話、心・体・命、戦争・平和、詩歌などに触れられるように選書している。

そしてそれぞれのカードを作り、読んだら担任や学校司書が印をつけ、完読したら表彰することで意欲を高めている。

他にも、幅広い読書活動を進めるために取組(2)を次のように行ってきた。

- ①月曜と木曜の朝読書
- ②ボランティアによる読み語り
- ③中学校との読書交流
- ④6年生から1年生への読み聞かせ
- ⑤図書委員会による図書祭り

①の朝読書は、週2日8:20～8:35 朝読書の時間に、図書館で借りてきた本か、学級に据え置きしてある必読書を自席で静かに読む時間である。朝に集中して本に向かうことで、落ち着いた気持ちで1日がスタートできる。また時には、担任やサポート教員などが読み聞かせもしたりしている。

②については、隔週の金曜日に地域の「くさぶえ」というボランティア団体に、学級ごとに入って10分～15分の本の読み聞かせをしていただいている。

③の中学生との読書交流は、コロナ禍前は、島根中学校の生徒が読み聞かせに来ていた。また、同じ本を読み感想文を書いて読み合う、「読書郵便」という交流は毎年小中で行っている。

④は、校内で本を通して異学年の交流を図る取組である。月に一度、6年生と1年生とペアになり、1年間6年生が1年生に対面で読み聞かせを行っていた。卒業前の最後には、1年生がお礼の意味もこめて6年生に読み聞かせをするが、1年生の成長を感じられる時間ともなっている。

⑤本校は4～6年生で委員会活動を行っている。図書委員会は、全校児童に本に親しんでもらえるようにと、本に関するイベント「図書祭り」を企画・運営している。

以上、本校の読書活動の取組の成果として、

- ・貸出数が増加した。
- ・以前の貸出数は4類に偏った傾向が見られていたのが、9類が増加した。
- ・読書を通して異学年の交流が増えるとともに、自分では選ぶのに迷うことが多かった児童が読んでもらった本を自ら読もうとする姿が見られた。

以上が、島根小学校における読書センターとしての実践である。現在、新型コロナウイルス感染症予防の観点から実践できていない活動もあるが、今後も可能な方法を探りながら学校図書館教育を推進し、学校教育目標に掲げた、「ゆめをもつ子、なかまを大切にする子、自らがやく子」を図書館を通して育てていきたいと考えている。